

十島村の島々

総面積: 101.35km² 総周囲: 148.53km

【最も大きい島】中之島: 34.48km² 【最も小さい島】小宝島: 1.00km²

人口 638人 世帯数 373戸 (※ピーク時の人口 S.27…3,394人)

【最も人口の多い島】中之島: 142人 【最も人口の少ない島】小宝島: 53人

※人口・世帯数は、平成26年2月28日現在の住民基本台帳の数値

十島村について

◎屋久島と奄美大島の間に位置し、有人7島、無人5島の計12の島で構成されている多島村です。

◎南北約160kmという人が常時住む地域としては「日本で一番長い村」です。

◎別名「トカラ列島」と呼ばれています。

◎2009年の皆既日食で有名になりました。

◎火山活動によりできた島がほとんどで、ほとんどの島で温泉が自噴しています。

◎気候については、亜熱帯と温帯の交差地域であり、年平均気温は20℃前後の温暖な気候で、年間降水量については、約2,700mm程度です。

◎壇ノ浦の合戦で源義経軍に敗北した平家一門は、西走し九州各地に上陸しました。その一部がトカラ列島の各島々に上陸したと言われています。そのため、全島ほとんどに平家末裔の伝承が残っています。

「トカラ」の名前と由来

十島村は、「トカラ」とよばれていますが、その名の由来については、沖縄・奄美地方で沖の海原を意味する「トハラ」から派生したという説、宝島に乳房の形をした女神山があることから、アイヌ語の乳房を意味する「トカプ」に由来するという説、また、「宝島」の「タカラ」から派生し、列島全体を指すようになったという説などさまざまですが、決め手になるものはありません。古くは、「日本書紀」で述べられているのが初見であり、近世に入り、三島村を含めた有人十島をあわせ「じつとうそん」と呼んでいましたが、昭和27年の日本復帰後は、三島村の三島と分離し、七島だけを「としまむら」と呼ぶようになりました。



口之島

Kuchinoshima

- ▶面積 / 13.33km² ▶周囲 / 20.38km
- ▶動植物 / タモトユリ、アダン(北限)、トカラヤギ、野生牛
- ▶土地の利用状況 / 牧場、水田、畑など
- ▶集落 / 口之島、西之浜



中之島

Nakanoshima

- ▶面積 / 34.48km² ▶周囲 / 31.80km
- ▶動植物 / マルバサツキ、スダジイ群落、ビロウ群生、トカラウマ、トカラヤギ
- ▶土地の利用状況 / 牧場、畑など
- ▶集落 / 船倉、寄木、里村、楠木、日之出(高尾・池原)

平島



Tairajima

- ▶面積 / 2.08km² ▶周囲 / 7.23km
- ▶動植物 / 大ガジュマル、アダン、トカラヤギ
- ▶土地の利用状況 / 牧場、水田、畑など
- ▶集落 / 平島

悪石島



Akusekijima

- ▶面積 / 7.49km² ▶周囲 / 12.64km
- ▶動植物 / リュウキュウチク、タブノキ群落、ビロウ群落、南白石亀、トカラヤギ
- ▶土地の利用状況 / 牧場、畑など
- ▶集落 / 上村、やすら浜

諏訪之瀬島



Suwanosejima

- ▶面積 / 27.66km² ▶周囲 / 27.15km
- ▶動植物 / マルバサツキ、ヤシヤブシ群落(南限)、リュウキュウチク、トカラヤギ
- ▶土地の利用状況 / 牧場、畑など
- ▶集落 / 諏訪之瀬島

宝島



Takarajima

- ▶面積 / 7.14km² ▶周囲 / 13.77km
- ▶動植物 / アダン群生、ビロウ群落、リュウキュウバショウ、トカラヤギ、トカラハブ、エラブオオコウモリ、ハウチワノキ、トカラウマ
- ▶土地の利用状況 / 牧場、水田、畑など
- ▶集落 / 宝島

小宝島



Kodakarajima

- ▶面積 / 1.00km² ▶周囲 / 4.74km
- ▶動植物 / ソテツ、アダン、ビロウ群落、トカラハブ
- ▶土地の利用状況 / 牧場、畑など
- ▶集落 / 小宝島

